1959年1月31日第3種郵便物認可

週刊 うたごえ新聞

8/9・16
(1993年)
NO. 1451

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2—16—36
☎03(3209)0638 FAX 03(3200)0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)

ノン・ジャンルの魅力を

暑中特集号

アコーディオン・プレイヤー 作曲家 小林靖宏氏に聞く

今や世界を舞台に活躍の小林靖宏さん。特に、アコーディオン読者からの大望で登場ねがいました。

既成概念にとらわれないアコーディオンの魅力をと果敢にトライする小林さんに、同じくアコーディオニストで作曲家の松永勇次さんがインタビュー。小林さんとは音楽センターより、小林さんのアルバム「ミラクル・アコーディオン」(82年)制作の時からの知り合い。小林さんの音楽の世界、世界のアコーディオンへと話は弾んで。(小林氏の事務所アトリエ・ダンカンで)

松永 お久しぶりです。最新アルバムの地中海三部作聞かせていただきました。特に三枚目、メロディーラインがシンプルですてきですね。

今日の対談、僕のアコーディオン・サークルメンバーも小林さんの大ファンですので、非常に楽しみにしてます(笑い)。よろしく。

小林 こちらこそ、よろしく。

松永 三歳の時からのピアノ、音感教育を受けておられた小林さんですが、十八歳でのイタリア留学は次の年の全日本コンクールで優勝も含めて、大きかったと思いますが。イタリアでのカルチャー・ショックってずいぶんあったんじゃないですか?

音楽家の精神的、肉体的、資質

小林 ええ、そりゃあもう。音楽に対する考え方そのものをつくる教育を受けました。アコーディオンの技術だけでなく、音楽とは何であるか、というところまで掘り下げて。特に、音楽家としての人格形成—精神的なものと肉体的なもの—が大きかったですね。

よく、日本の音大なんかで練習のし過ぎで身体をこわす人、うたい過ぎて咽をいためるケースとか、多いじゃないですか。そういうケア専門の教授もいらして、音楽家として必要なあらゆる部分を教育してくれるシステムでした。

松永 具体的に、アコーディオンでいえばどんなふうに違いました?

(6・7面へつづく)

沖縄の反戦地主 島袋善祐さんのバラ(あいさわめみ) 3面
学徒出陣から50年(三輪純永記者) 5面
二本松はじめ つながりうた日記 4面
高橋真梨子カーネギー・ホール・コンサート(伊藤 強) 2面
わがふるさと 徳之島の思い出(鶴嘉一郎) 3面
みちのくの旅(土屋美和) 9面
東部青年合唱団(東京)の30年(斉藤良一) 8面

〔連 載〕
「レッツ・ジャズ♪」(金井英人)
「アコーディオン半世紀」(江森 登)
「大空びっぴきぴー」(RANKO)
「郷土のうたと踊りめぐり」—郡上盆踊り
「入会したよ、よろしくね」—神奈川うたごえOB合唱団
「食は訴える」(三輪純永記者)
「ミュージック・トゥデイ」(日下部吉彦)
「今週の音楽会評」—埼玉合唱団

ふ・めんだい

若ノ花が大関になった。弟の貴ノ花とならんで、史上初の兄弟大関ということだ。ぜひ「綱」へチャレンジしてほしい。

スポーツにかける情熱は、今大人気のサッカーといい、見ていて実に美しいし、すごいパワーを感じる。

☆ ★ ☆

それにしても、こちらのパワーは今ひとつ。政治の世界は、依然、金権腐敗。何とか「改革」してほしいという国民のねがい、そのエネルギーに期待したのだが、総選挙の結果は、結局保守合同勢力が大きくなっただけ。

仮に「非自民」といわれるところが「政権交代」しても、金権体質は一向に変わる見通しがない。

それにしてもマスコミは堂々と選挙違反をしているのではないか。特定の候補者や政党を名前を上げて報道する。こちらもかえるには相当なパワー、エネルギーが必要だろう。

☆ ★ ☆

だれでも、ここ一番という時、大きなエネルギーを発揮するものだが、四十五周年日本のうたごえ祭典も本当に一人ひとりの想いが寄りあい、創意と工夫によって力が出てくる。「うたごえぞう列車」で千葉へ、というとりくみもなかなか楽しそうだ。

企画の第一案が出された。うたってうたってパワーを発揮したい。

ところであなたのエネルギーは何によって生まれますか?

(修)